

令和 8 年度 急傾斜地崩壊対策工事

工事番号 線急メンテ 第 6-2 号

路線名 蟹沢区域

箇所 八戸市大字糠塚 地内

位置 図 縮尺 —

図面番号 4 葉中 1

三八県土整備事務所

青 森 県



令和8年度 急傾斜地崩壊対策工事		
工事番号	緑急メンテ第6-2号	
路線名	蟹沢区域	
施工所	八戸市大字糠塚地内	
吹付工計画平面図 法枠工面積計測図	縮尺	S=1: 500(A1) S=1: 1000(A3)
図面番号	4 葉 中 2	
三八県土整備事務所		
青 森 県		

(蟹 沢)

吹付工計画平面図

S=1: 500 (A1)

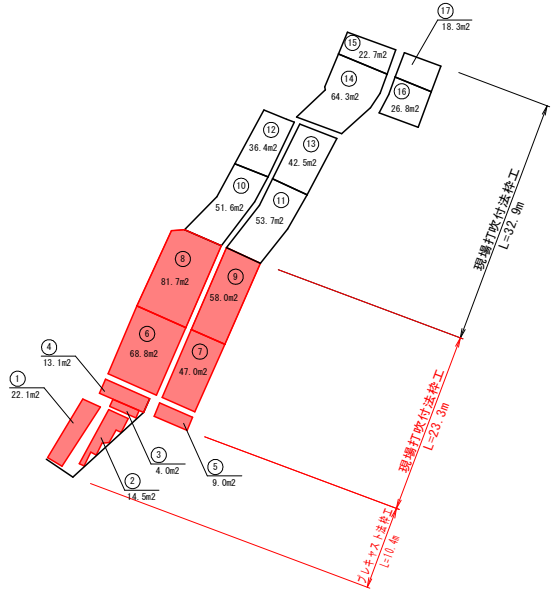
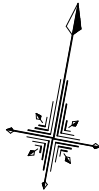
S=1: 1000 (A3)

法枠工面積計測図

S=1: 500 (A1)

S=1: 1000 (A3)

(蟹沢)



プレキャスト法枠工

番号	面積	勾配	補正率	補正面積
1	22.1	1:1.20	1.56	34.5
2	14.5	1:1.20	1.56	22.6
3	4.0	1:1.20	1.56	6.2
法枠工面積集計				63.3

現場打吹付法枠工

番号	面積	勾配	補正率	補正面積
4	13.1	1:1.20	1.56	20.5
5	9.0	1:1.20	1.56	14.1
6	68.8	1:1.20	1.56	107.5
7	47.0	1:1.20	1.56	73.4
8	81.7	1:1.20	1.56	127.6
9	58.0	1:1.20	1.56	90.6
10	51.6	1:1.20	1.56	80.6
11	53.7	1:1.20	1.56	83.9
12	36.4	1:1.20	1.56	56.9
13	42.5	1:1.20	1.56	66.4
14	64.3	1:1.20	1.56	100.4
15	22.7	1:1.20	1.56	35.5
16	26.8	1:1.20	1.56	41.9
17	18.3	1:1.20	1.56	28.6
法枠工面積集計				433.7

※本平面図について

UAV空撮によるオルソ画像からトレースしたものである。

転落防止柵の交換工については想定延長となるため、
工事の際に再度補修延長について確認すること。

※補正面積について

補正を掛ける勾配を区域台帳での標準断面図の法面勾配
1:1.2と設定し、補正面積を算出した。

令和8年度 急傾斜地崩壊対策工事		
工事番号	緑急メンテ第6-2号	
路線名 河川名	蟹沢区域	
施工所	八戸市大字糠塚地内	
吹付工標準図(1)	縮尺	図示
図面番号	4	葉中 3
三八県土整備事務所		
青森県		

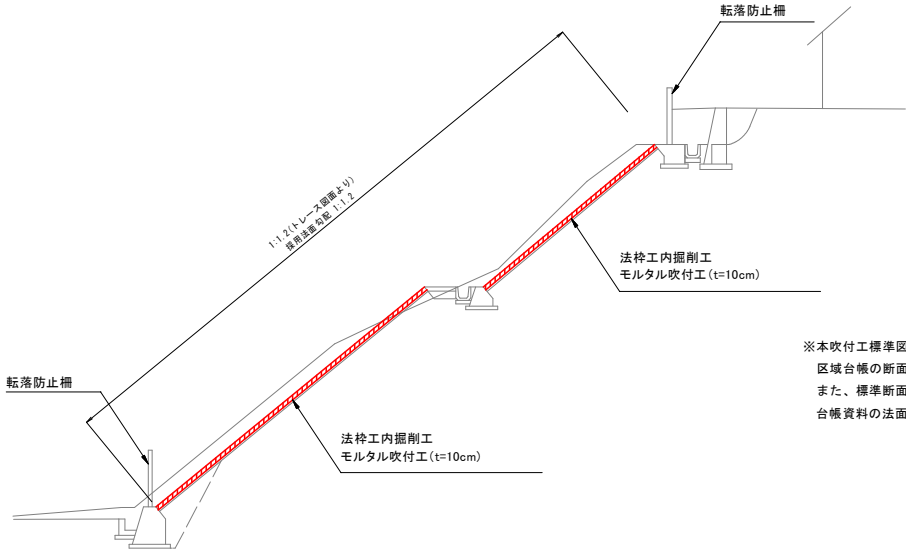
(蟹 沢)

吹付工標準図(1)

S=1:100 (A1)

S=1:200 (A3)

プレキャスト法枠工

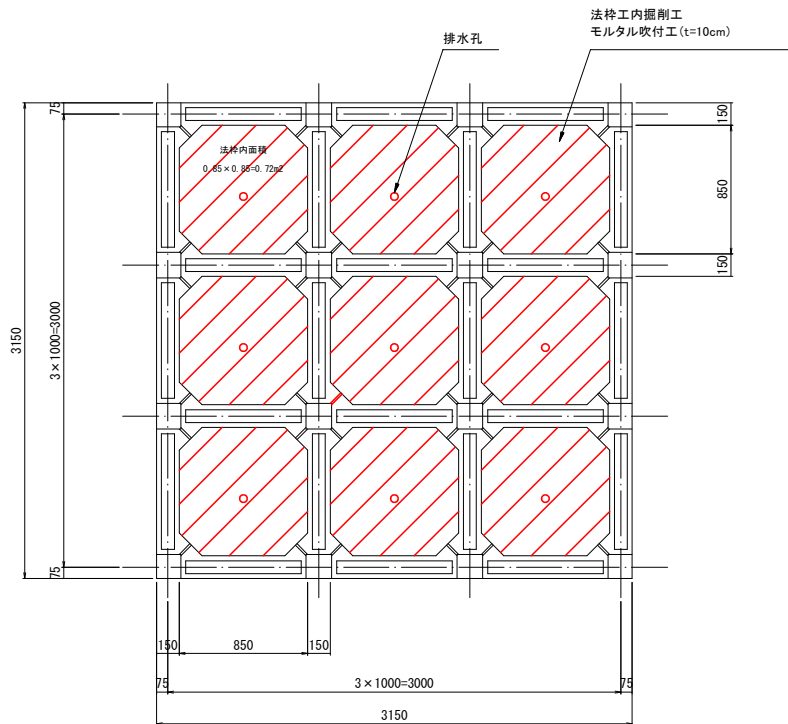


※本吹付工標準図について
区域台帳の断面図をトレースしたものである。
また、標準断面図の法面勾配 1:1.2については、
台帳資料の法面勾配 1:1.2より設定した。

標準平面図

S=1:25 (A1)

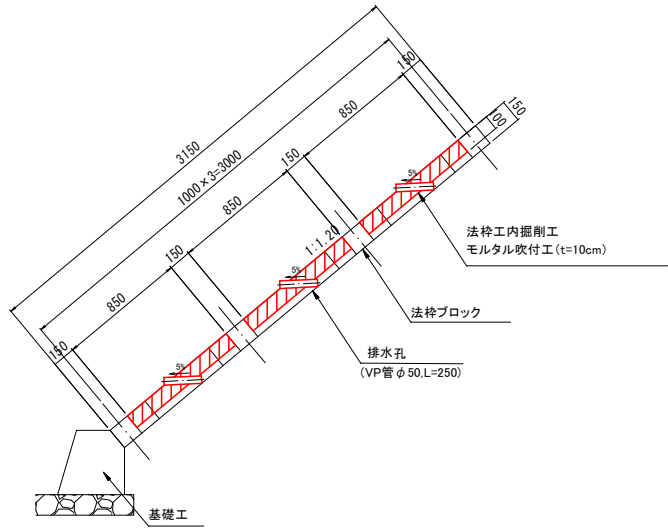
S=1:50 (A3)



標準断面図

S=1:25 (A1)

S=1:50 (A3)



※本図面のプレキャスト法枠工の平面図・断面図について
現地調査結果を基に作図を行ったものである。

※VP管の延長については施工の際に再度現地状況を確認し、
枠内の空洞化状況に併せて適宜調整すること。

- 標準1スパンの法枠工個数・面積等
- ・標準スパン面積：B3.15×H3.15=9.92m²
- ・法枠個数：3×3=9個
- ・法枠工単位面積当たりの法枠工個数：/②=①個/m²
- ・法枠内面積：B0.85×H0.85=0.72m²/個
- ⇒対象法面の法枠工個数：N=対象法枠工面積×0.91個/m²

※実際の現地法枠工では端部に傾斜のある区間は
傾斜部分を現場打ちコンクリート等による処理を
している箇所があるが、このような箇所については
それほど面積は大きくないため本設計の法枠工内の
吹付工実施面積には考慮しない。

令和8年度 急傾斜地崩壊対策工事		
工事番号	緑急メンテ第6-2号	
路線名 河川名	蟹沢区域	
施工所	八戸市大字跡塚地内	
吹付工標準図(2)	縮尺	図示
図面番号	4	葉中 4
三八県土整備事務所		
青森県		

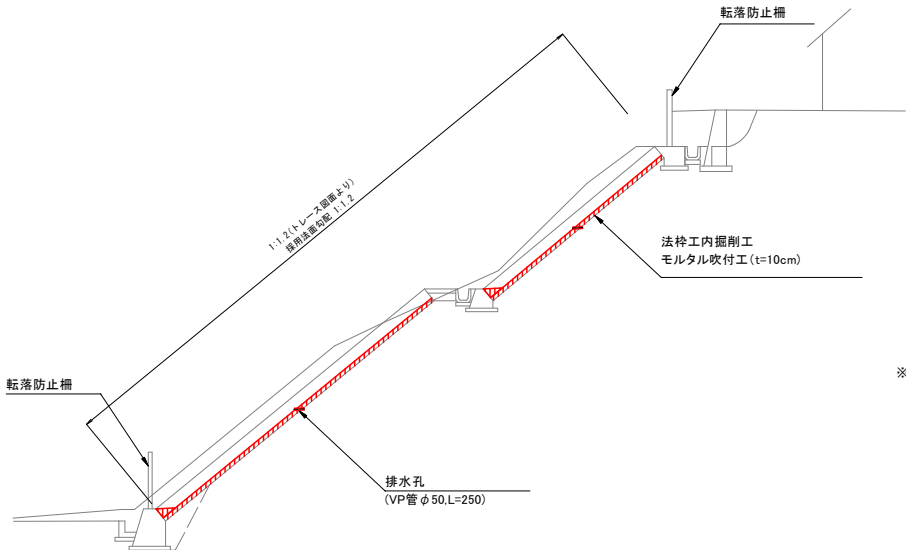
(蟹 沢)

吹付工標準図(2)

S=1:100 (A1)

S=1:200 (A3)

現場打吹付法枠工

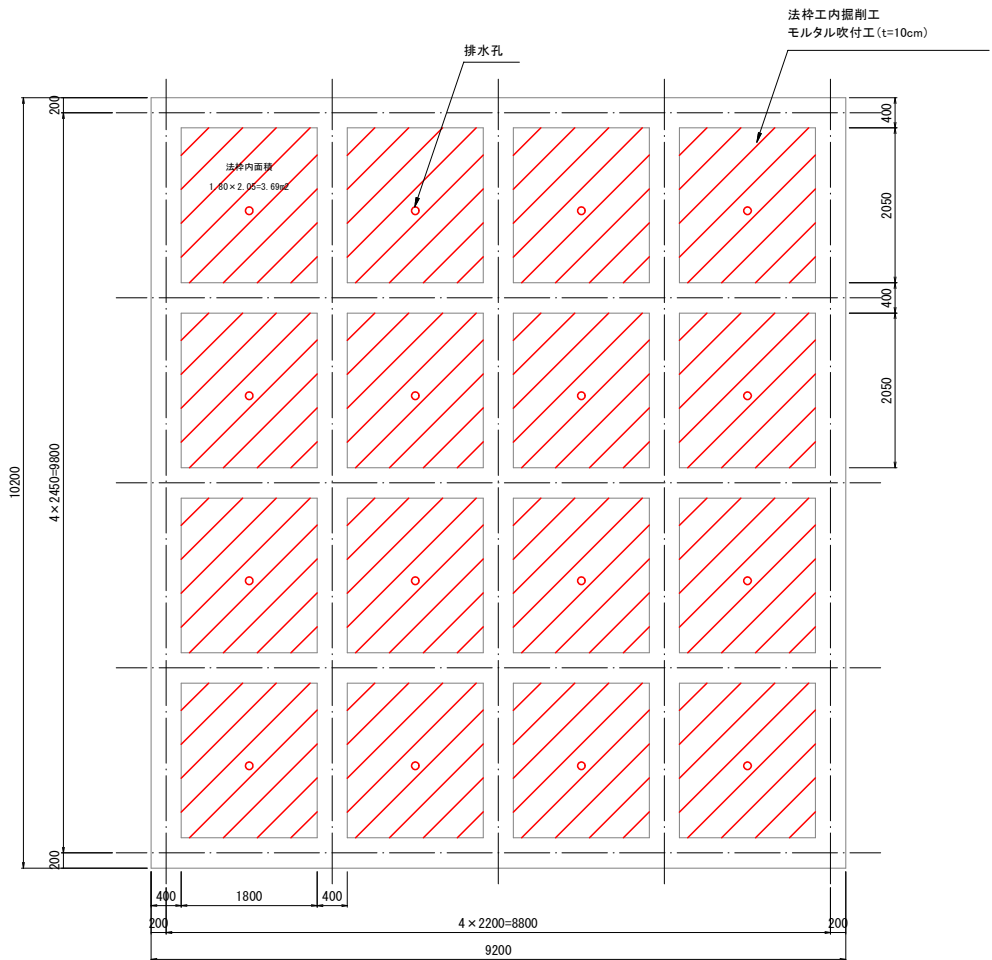


※本吹付工標準図について
区域台帳の断面図をトレースしたものである。
また、標準断面図の法面勾配 1:1.2については、
台帳資料の法面勾配 1:1.2より設定した。

標準平面図

S=1: 50 (A1)

S=1:100 (A3)



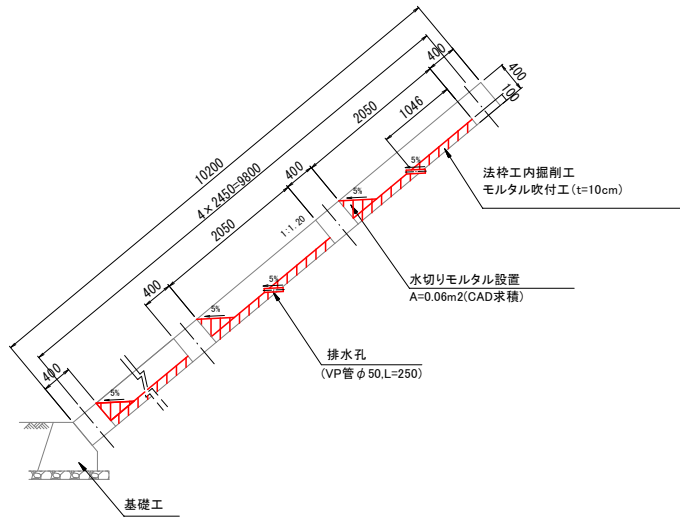
- 標準1スパンの法枠工個数・面積等
- ・標準スパン面積：B9.20×H10.20=93.84m2
- ・法枠個数：4×4=16個
- ・法枠内面積：B1.80×H2.05=3.69m2/個
- ⇒対象法面の法枠工個数：N=対象法枠工面積×0.17個/m2

※実際の現地法枠工では端部に傾斜のある区間は
傾斜部分を現場打ちコンクリート等による処理を
している箇所があるが、このような箇所については
それほど面積は大きくないため本設計の法枠工内の
吹付工実施面積には考慮しない。

標準断面図

S=1: 50 (A1)

S=1:100 (A3)



※本図面の現場打吹付法枠工の平面図・断面図について
現地調査結果を基に作図を行ったものである。

※VP管の延長については施工の際に再度現地状況を確認し、
枠内の空洞化状況に併せて適宜調整すること。